

# 平成29年度小地域ネットワーク活動推進会議

## 1 講演 テーマ 『 まちづくりは地域みんなの支え合いで

～小地域ネットワーク活動事例をとおして 』

北海道社会福祉協議会 地域福祉部地域福祉課 主査 鈴木 久美香 氏

- ・地域を取り巻く社会的背景が多様化し、国としても「地域包括ケアの構築」「地域共生社会の実現」を掲げて対策を講じる動きになっている。
- ・「地域包括ケアの構築」のためには、地域の多様な担い手（ボランティア・NPO等）の活躍や高齢者自身も担い手となるようなまちづくりが必要とされる。
- ・「地域共生社会の実現」のためには人とのつながり、縦割りではなく丸ごと受け止める場作り、住民と協働で取り組む仕組み作りが必要。
- ・南富良野町での小地域ネットワーク活動は長く継続されており、今さらに推進していくことが求められている。
- ・小地域福祉活動には特に決まりはないが、多くは「見守り・支援活動」「ふれあい・交流活動」「生活課題の発見活動」等の活動をとおして住民同士が支え合うしくみ。
- ・当別町社協の事例では、孤立死の危険性を軽減するため、行政や福祉関係者のみならず民間事業者（ガス・水道・電気・新聞配達等）との連携を図る取組み。社協が相談窓口を担う。
- ・協力機関が少しの異変にも気付くことが鍵。
- ・本別町社協の事例では、廃校校舎を活用した拠点づくり、サロン推進、地域の社会資源もうまく取り入れた活用等の取組み。
- ・鷹栖町社協の事例では、買い物弱者への対策として、住民や商工会とのつながり構築。見守りや新たな住民同士のつながりも構築。
- ・子ども食堂の取組みも全国的に広がりを見せており、子どもを中心とした住民のつながりや活躍の場作りが期待される。



テーマ 『 私たちの支え合い活動実践 』

## 1 実践報告

### 1) 栄町町内会福祉ネットワーク 部長 後藤 健寿氏

- ・今回の発表を引き受けてから、栄町での小地域ネットワーク活動の歴史を調べてみた。
- ・活動としては平成13年から行っており、回覧版を活用した声かけ活動、春のお花見や秋の収穫

祭、70歳以上の高齢者を対象とした新年会を開催している。

- ・70歳以上の対象者の事情も、高齢になって参加が難しくなっている方、季節柄真冬に外出するのが億劫になってきている方、集いの場に出たくない方など変化してきている。
- ・秋の収穫祭は事情により現在は行っていない。
- ・開始当初は160戸だったが、現在は207戸と増えている。70歳以上の方も倍以上に増加。
- ・子どもと高齢者の交流は大事にしたい。
- ・町内会活動の延長として小地域福祉活動をしていくことが良いと考えている。
- ・課題は、参加率の低さ、交流の際にでた個人情報がかつたまにか広まってしまい、もう参加したくないという声が聞かれること。

## 2) 落合サロン「郵遊クラブ」運営担当 高石 裕一氏

- ・平成27年1月より、前任の落合郵便局長が中心となりサロンスタート。4月からはその任も引継ぎ現在運営を担当している。
- ・定期活動は月2回、郵便局内のスペースと落合多目的で開催している。
- ・そのほか、10月に秋のお食事会(60歳以上)、3月に卒業と進級を祝う会を実施し、子どもから高齢者までが交流できる機会をつくっている。

